

# 甲状腺機能障害

女性に多く見られる甲状腺機能の異常。甲状腺は首の前側にあり、食物に含まれるヨウ素を材料にして甲状腺ホルモンをつくり、血液中に分泌するところです。甲状腺ホルモンには新陳代謝を盛んにする働きがあり、多すぎても少なすぎても体調が悪くなってしまいます。

## どんな病気？

甲状腺機能亢進（甲状腺ホルモンの分泌が多い。バセドウ病など）と甲状腺機能低下（甲状腺ホルモンの分泌が少ない。橋本病など）に大別できます。どちらも不安や焦燥感などの精神症状がでるほか、甲状腺機能亢進では、やせや動悸、甲状腺機能低下ではだるさなどがあります。

## 治療法は？

甲状腺機能亢進の治療法には、薬物療法、ラジオアイソトープ療法\*、手術療法の3つがあります。妊婦や授乳婦、近い将来妊娠を考えている人の場合は、赤ちゃんへの健康を配慮した、より専門的な治療を行う必要があります。

甲状腺機能低下の治療には、一般的に薬物療法を行います。少ない量から飲みはじめ、甲状腺ホルモン値の正常化を目標に徐々に増やしていきます。

\*放射性ヨウ素のカプセルを飲んで甲状腺の細胞を部分的に壊すことで、甲状腺ホルモンの分泌を減らす治療法

### 甲状腺機能亢進

- 食べても食べてもやせてしまう
- 疲れやすい、よく眠れない
- 動悸（どうぎ）がする
- 汗をかきやすい
- 下痢しやすい
- 月経が不規則



### 甲状腺機能低下

- 体重が増える、むくみがち
- 疲れやすい、寒さに弱い
- 声がかすれる
- 肌が乾燥しやすい、毛が抜ける
- 便秘しやすい ● 月経が不規則



こんな症状がいくつかあるときは、一度、医師の診察を受けましょう。



## こんなときどうする!? 子どもの健康トラブル

## 下痢・嘔吐

監修/大川こども&内科クリニック院長  
大川 洋二

下痢や嘔吐があっても元気で機嫌がよく尿が出ているときは、様子を見て診療時間内に受診しましょう。ロタウイルスやノロウイルスなどによる感染性胃腸炎の場合は、家族にも感染しますので、十分な注意が必要です。

すぐに受診すべきか判断に迷うときは…



小児救急電話相談 # 8000  
救急相談センター # 7119

### 下痢・嘔吐時の家庭での対応

脱水症状を防ぐため、十分に水分を補給しましょう。吐き気があるときは、15～30分ごとに水分を少しずつ与えます。水分の目安量(ml)は体重(kg)×2です。水分は初期では飲用水で十分ですが、食事がとれない間は経口補水液を与えましょう。食事ができるようになれば、むしろ麦茶など飲用水のほうがよいでしょう。食事は、ごはんやおかゆ、うどんなどの炭水化物を普段よりも少なめに与えるとよいでしょう。

嘔吐があるときは、吐いたものがのどにつまらないように、顔を横に向けて寝かせます。

薬は、下痢止めはかえって病原体をお腹に閉じ込めるため、整腸剤を使用します。嘔吐が強いときは吐き気止めの座薬もあります。かかりつけ医に相談しましょう。

### なるべく早く医療機関へ行ったほうがよいとき

水分がとれないときや唇が乾いているとき、尿が出ないときやおむつが濡れないとき（目安は12時間くらい）、ぐったりしているとき、血便が出たり血液が嘔吐物に混じっているとき、生後3ヶ月未満の赤ちゃんの場合は、なるべく早く医療機関を受診しましょう。

また、嘔吐の原因には、髄膜炎や脳出血などの脳の病気による場合もあります。下痢はなく高熱があり嘔吐を繰り返す場合や、頭を強く打ったあとの嘔吐の場合は、なるべく早く受診しましょう。

